

第5回信州学び円卓会議の概要

■概要

実施日程	令和6年10月16日(木) 15:00~17:00
場所	長野県教育会館 3階 ホール (長野市旭町 1098)
出席者	・円卓会議委員 11名 (内オンライン3名) ※別紙名簿のとおり ・阿部知事 (オブザーバー)、武田教育長 (オブザーバー)
会の目的	・これまでの議論を踏まえたメッセージに関する意見交換 ・今後の信州学び円卓会議の進め方

■当日の様子



■主な意見

- ・各クラスに配慮を要する生徒もいるため、教職員や補助的な職員の増員の必要は日々感じている。
- ・学校や色々な立場で働く大人が生き生きしている姿や、この仕事が楽しいという姿を子どもたちに見せないといけないと感じる。
- ・教員も管理職も、多忙感是非常にある中で、もっとこういうことをやりたいという思いは非常に強い。
- ・教育実習と実際の現場の違いとして、事務業務が多い、こういうこともやらなければいけないといったことをとても強く感じているという話を聞く。
- ・特別支援学校の就学奨励費について、保護者から細かいお金やレシートを集めるといった業務があるが、そうした業務を教員がやるということはなかなか想定されていないと思う。
- ・これまでいろいろなメッセージ等が出されてきたが、今回は県と県教委が一緒になっていることで、県の本気度が違うなどという受け止めをしているのではないかなと思う。
- ・今まで当たり前前に過ぎてきたことをもう一度振り返ることで新しいことにチャレンジし、そのことが当たり前になっていく、そんな教育をつくっていかうという方向については賛成。
- ・メッセージを基に子どもたちの生の声を聴いたり、子どもたち自身が会議に参加をしたり、体制・制度を変えていく、つくっていく側に回っていきけるような機会が必要という意見はとても多かった。
- ・現場の人たちは、なかば諦めモードに入っている人が多いのではないかな。どうせ言っても変わらない、どうせ検討会をつくったって少し変わるだけじゃないのかと思われてしまっているのではないかな。
- ・誰かが何かをしてくれるとか、誰かが何かを変えてくれるとか、それを待っているとたぶん変わらない。

関係者全てが自分事として取り組めるような環境をしっかりとつくっていかないといけない。

- ・当事者として子どもたちの声をもっと聴かなければいけないし、議論にもっと主体的に参画してもらうほうが、より子どもたち中心の教育、学びの議論ができるのかなと思う。
- ・学校の先生方も、どうしても閉じた世界にいると外からいろいろ言われてしまう立場になるので、地域に出たり、広い世界を経験してもらう機会をつくって、主体的に教育のあり方を考えていけるようなバックアップをしていくということが重要な視点かなと思う。
- ・よりよい学校の形は事前には分からないという前提に立ったほうがよいかなと思う。現場レベルにおいてボトムアップでそれぞれ試行錯誤し、それを応援していくことで、みんなが当事者になっていくというプロセスになっていくんじゃないかなと思う。
- ・子どもたちの中にはこうしたい、こうなるとよいという思いが実感を持って手元にあるはずであり、その声をちゃんと聴きながら、どうやったら実装できるかというのは大きいテーマだと考えている。
- ・学校改革支援センターの組織自体がメッセージになるかなと思う。先生たちがエンパワーされるような組織に見えるかどうか、それが大きな鍵だと考えている。
- ・今の業務量ややり方を基本として、時間、人、お金が足りないという議論をしている限りは多分解決はしないだろうなと感じる。
- ・本来学校でやるべきこと、学校でなければできないこと、その機能や役割をしっかりと精査して、集中したり、絞り込んだり、スリム化したりすることが必要で、地域でもできることは手放す勇気を持つことも大事かなと思う。
- ・管理職について、希望すれば何年スパンでこのプロジェクトをやりたいからこれぐらい長く居させてほしいといった要望を出せるような仕組みがあるほうが、実効性はあるのかもしれないと感じる。
- ・あえて新しいことをやって、こけてしまったりとか、クレームをいただくとか、そうしたことが想定されるときに、それを超えてでもやろうという気持ちを公立学校の先生たちが持てるのか。一定のインセンティブがあるなど、仕組みの部分で考えたほうがよいことなのかもしれない。
- ・学校現場の先生方の自己肯定感、自尊感情が低いところが気になる。施策を含めて県民全体でカバーしていく必要があるかなと思う。
- ・学校現場で日々子どもと向き合っている先生方が、教師としての使命感に燃えてやりたいことをやれるようにするためには、やはり本業に関係しないようなものを大いに削ぎ落としていく必要があるのではないかな。
- ・信州教育は失敗と挫折の積み重ね。挑戦や挫折ではなく守ることになってきてしまったのが今のありようだと思っている。
- ・学校教育は自治が大事。学校の先生が主体的に考え行動できる、あるいは各学校を取り巻く保護者や地域の皆さんが学校のあり方を主体的に考えて行動できる、そうしたことが何よりも重要。今の教育は、真逆の形になっている。
- ・他律的にこれをやりなさいであったりとか、どこかの学校で何か問題があると、国や県から指示が来たりとか、これだと学校の先生のモチベーションも上がらないし、いくら時間があっても足りなくなる。

■座長のまとめ

今後はこの「新しい当たり前」を「共に創る」点に焦点を当てて、当事者である子どもを中心に据えながら、皆さんでさらに理解を深め実行に移していける努力を実現していくことを願う

第5回信州学び円卓会議 出席者名簿

(50音順)

職 名	氏 名	備 考
信州大学教職支援センター准教授	荒井英治郎	座 長
軽井沢風越学園校長	岩瀬直樹	オンライン
松本大学教育学部教職支援室専門員	浦野憲一郎	
根羽村長	大久保憲一	
(公社)信濃教育会会長	大日方貞一	
(学)白馬インターナショナルスクール理事長	草本朋子	
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤守	欠 席
NPO法人 Hug 代表	篠田阿依	オンライン
山ノ内町教育長	竹内延彦	
上田市立第五中学校校長	畠山正幸	
須坂市長	三木正夫	欠 席
松本市立波田小学校校長	三輪千子	
信州大学教育学部学部長	村松浩幸	欠 席
長野県野沢北高等学校校長	柳沢 敬	オンライン